



河海五石齋集  
乾





自

自蕙翁終於我治華  
此地好儼若比什邦  
尤為多景江戶人既  
君五百題散句集而  
源華易名崗花臺  
宗正源慨之始輯浪  
華五百題散句六宗  
匪近下在于翁於焉震  
而續芳躅去其此系



不可謂去忝于竅而為  
 此世好能者獎揚風  
 聲也余聞越之目年  
 數百

嘉嘉嘉嘉嘉  
 乃後百

九山張七



三月之部

歲旦

元日 立春 初春 初啓

初明

乃の初 今朝の春花の初 乃の初

乃の初

初空 三乃の初 乃の初 年の始

乃の初

初霞 初鳥 初夢

乃の初

初春 乃の初 乃の初 乃の初

乃の初

初水 乃の初 乃の初 乃の初

乃の初

乃の初 乃の初 乃の初 乃の初

乃の初

乃の初 乃の初 乃の初 乃の初

乃の初

乃の初 乃の初 乃の初 乃の初

乃の初

乃の初 乃の初 乃の初 乃の初

乃の初

乃の初 乃の初 乃の初 乃の初

乃の初

乃の初 乃の初 乃の初 乃の初

乃の初

乃の初 乃の初 乃の初 乃の初

三ヶ日 乾坤 睦月 和芝居 初子日

人日 往連内 敷入 綱引 左邊

卯月 店風 佛侶師 陣亭 冷々々

凍餅 氷餅 出の雪 淡雪 名残雪

雪間 雪餅 霞 薄霞 長閑

黍 毛遊 陽菜 暖 水の色

永日 暹日 佐保姫 赤色 山火

凍雪 結雨 植物 小松 七種

齋 佛の世 於代 芥 糸菜

考菜 下巻 古筆 毒の巻 草竹

才の身 梅 松の花 名はう 畑方

柳 椿 山葵 獨活 生類

梅の舌 白臭 百子鳥 鶯 うそ

雲雀 駒鳥 水鳥 鳥轉 蜆

蛤 食穀 海苔 神教 齋園

春卯 考う 卯忌

二月之部

乾坤 卯月 二日 亥 観月 初雷

出代 社日 巾 植物 初花

初櫻 紅梅 接木 枸杞 玉加木

苗代 種蒔 種卸 菜花 芹杖

蕨 蒲菜 持羊 菜花 菜苗

産の節 菖蒲 境野 山境 生類

燕 雛子 帰房 雀子 引鴉

川鶴 鳥の巢 蛙 田鱒 馬刀

落角 亞鳥 怪 蝶 神教

初午 新能 浸盤 彼岸

乾坤 三月之部 初霜 初如 初雪 夏近キ 夏解

行北 三月 植物評 桃

櫻 遷櫻 花 海棠 芍藥

木山花 辛夷 連翹 茶福

藤 山吹 薔 豆 生類評

蕪合 啄子鳥 烏雲入 茶館 櫻鯛

蟹 倉敷評 叶餅 刈草 神歌評

寺念佛 人丸忌 口影信 出難

四月之部

乾坤評 卯月 短夜 大矢敷 燭

汗 汗拭 扇 團扇 日傘

植物評 牡丹 芍藥 杜若 芍藥

葵 一八 麦秋 芍藥

若楓 新樹 紫井 木下園 葉梅

桜の重 弁花 桐の花 芍藥 花柳

鶯 鶯 鶯 鶯 夏草 生類評

鳥 鶯 鶯 鶯 鶯 鶯

初夜 紅豆 鶯 蛭牛 蠅

飯 飯 飯 飯 飯 飯

青鷺 鶯 鳧 鶯 肉食評

更丸 初詣 新茶 新麦 汽水

能 神歌評 鶯 鶯 夏花

灌仏 花見考 夏古

五月之部

乾坤評 卯月 茶日 懺 夏草

入梅 梅雨時 五月雨 植物評 高浦青

四植 早乙女 早苗 鶯 鶯

菖蒲 菖蒲 紅花 紫陽花 百合

菖花 菖子 合歡 鶯 櫻

菖柳 菖柳 瓜 瓜 茄子

菖介 菖植 生類評 蟬 浮葉

水雞 茄子 大牛 蛇夢院 衣食并  
 糝 惟子 くらりの 神教并 義馬

六月之部

乾坤并 水每月 暑 空天 風意  
 豫中 納涼 夏月 青東風 夏風  
 夏の夜 夕立 泉 清水 土用子  
 夏中 赤夏喉 葦 介湯人 夏渡  
 秋時 秋夕 植物并 氷室揚 連  
 夕顔 昏顔 麻 青田 田中  
 真栗瓜 生類并 神倉 大玉虫 海月  
 言類并 葛水 心太 沖能 神教并  
 渡會 石鼓 葵 芽茹 雜

信草三百題集上卷

花屋庵鼎方輯

果出并部

元日 元日の朝より早夜夕まで 鼎左  
 元日お初詣のけしき 花火のま 仁豆  
 元日お初詣のけしき 花火のま 月桂  
 元日お初詣のけしき 花火のま 楓  
 元日お初詣のけしき 花火のま 曲柳  
 元日お初詣のけしき 花火のま 寺院  
 元日お初詣のけしき 花火のま 花院  
 元日お初詣のけしき 花火のま 草  
 元日お初詣のけしき 花火のま 草  
 元日お初詣のけしき 花火のま 草

野

向はすれはるる川を

惟子

清くはるる川を

井村

船より入るる川を

史記

舟より入るる川を

曲洞

三つ入るる川を

史記

舟より入るる川を

島左

物

舟より入るる川を

一柳

舟より入るる川を

徳兵

物

舟より入るる川を

志保

舟より入るる川を

松留

舟より入るる川を

九郎

舟より入るる川を

石外

舟より入るる川を

善功

舟より入るる川を

月下

舟より入るる川を

善池

舟より入るる川を

喜池

舟より入るる川を

月士

舟より入るる川を

一池

舟より入るる川を

善池

舟より入るる川を

鼎子

物

舟より入るる川を

光林

舟より入るる川を

澄月

舟より入るる川を

一菜

舟より入るる川を

善池

物

舟より入るる川を

善池

舟より入るる川を

島池

舟より入るる川を

不承

舟より入るる川を

一池

舟より入るる川を

池子

物

舟より入るる川を

井村

舟より入るる川を

自承

舟より入るる川を

耕池





初言や能くともく日知す 芳蕭

とつたやまとも早うけのまら社 雅馬

まじの初言けを寔めお 曲例

とさあまをとも地元のうらら 和言

と月やま真海とふまらうら 真池

おきやうけの氷の鳥 幸曉

言の初 月や且一日をゆふうら 風所

初言 初言と初言のなまそとも 昂左

初言の初言一城ふら初言け 龍洲子

まじの初言ハ初言や義のま 梅價

はらま初言の初言け初言け 宇那

押はしと初言の初言の鳥 松眉

まじの初言よま初言や初言 枝月

おむぬふと初言け初言け 双馬

まじの初言や海を初言け初言け 初言

まじの初言初言初言初言初言の初言 初言

小川にも初言初言初言初言 新松

初言の初言初言初言初言初言 小山

初言初言初言初言初言初言 蘭標

初言初言初言初言初言初言 第一

初言初言初言初言初言初言 初月

初言初言初言初言初言初言 由誓

初言初言初言初言初言初言 由誓

初言初言初言初言初言初言 月不

初言初言初言初言初言初言 初言

初言初言初言初言初言初言 由誓

初言初言初言初言初言初言 由誓

初言初言初言初言初言初言 初言

初言初言初言初言初言初言 初言

初言初言初言初言初言初言 初言

初言初言初言初言初言初言 初言

初言初言初言初言初言初言 初言

初言初言初言初言初言初言 初言

清慶

言玉

年計能

初言初言初言初言初言初言 左桑

初言初言初言初言初言初言 初月

年神やむつ三井のまはら 見外  
 出車して遊ばせよや南の子 月晴  
 去後め又あつてさういふ 壺也  
 ついで神のまはらをいふ 梅垣  
 せんかたあふ女の清きこゝろ 卦詠  
 酒のあはれはあつてさういふ 得意  
 弟のあはれはあつてさういふ 草標  
 神あつてさういふあつてさういふ 悠平  
 梅垣の町の位やさういふ 素龍  
 せんかたあふ女の清きこゝろ 五中  
 やちてあつてさういふあつてさういふ 光林  
 ついで神のまはらをいふ 一喜  
 せんかたあふ女の清きこゝろ 素白  
 弟のあはれはあつてさういふ 素山  
 向後さういふあつてさういふ 次惘  
 せんかたあふ女の清きこゝろ 孝山

初馬

雲行つて山にまはら 編雷  
 去年の神のまはらあつてさういふ 九龍  
 清きこゝろあつてさういふ 壺也  
 初馬のあはれはあつてさういふ 悠平  
 せんかたあふ女の清きこゝろ 素龍  
 弟のあはれはあつてさういふ 素白  
 向後さういふあつてさういふ 素山  
 せんかたあふ女の清きこゝろ 次惘  
 弟のあはれはあつてさういふ 孝山

初馬

聖徳太子一冊抄也和...寸 言石  
 心巧  
 女松  
 和集  
 梅竹  
 光林  
 楓  
 松竹  
 李瞻  
 夏月  
 羊口  
 月人  
 芝耕  
 一  
 九  
 九  
 九

藤積  
 心  
 心

いわつひ... 海嘉  
 稲  
 性  
 一  
 秋  
 雄  
 山  
 左  
 嘉  
 日  
 風  
 村  
 路  
 嘉  
 人

井田

初水

つねにわたりし水のうらみお水 文彦

河原にまよひながらのわらわ 風歌

我をばつこころあはれやとて 藤末

きこゆわらわをきくはやく 稲富

らつこころあはれやとて 宗那

はげ

夕ひきやわらわのうらみ 昂左

おこころあはれやとて 雨外

はげやとてあはれやとて 柳三

はげやとてあはれやとて 月人

おこころあはれやとて 道徳

おこころあはれやとて 寸吉

おこころあはれやとて 素直

おこころあはれやとて 柳三

おこころあはれやとて 柳三

恵方

おこころあはれやとて 恵方

おこころあはれやとて 恵方

門勝

おこころあはれやとて 門勝

おこころあはれやとて 門勝

おこころあはれやとて 門勝

おこころあはれやとて 門勝

おこころあはれやとて 門勝

門松

おこころあはれやとて 門松

初水

おこころあはれやとて 初水

おこころあはれやとて 初水

おこころあはれやとて 初水

おこころあはれやとて 初水

おこころあはれやとて 初水

おこころあはれやとて 初水

おこころあはれやとて 初水

おこころあはれやとて 初水

おこころあはれやとて 初水

いすかふものねやうう ね 杜若

門のね子まーとまを極せん 為山

江戸の左ね子まーとまを極せん 為山

川ね子まーとまを極せん 為山

月まふらまーとまを極せん 為山

うねねとまふらまーとまを極せん 為山

勝葉 勝葉 勝葉 勝葉 勝葉

勝葉 勝葉 勝葉 勝葉 勝葉

勝葉 勝葉 勝葉 勝葉 勝葉

勝葉 勝葉 勝葉 勝葉 勝葉

勝葉 勝葉 勝葉 勝葉 勝葉

勝葉 勝葉 勝葉 勝葉 勝葉

勝葉 勝葉 勝葉 勝葉 勝葉

勝葉 勝葉 勝葉 勝葉 勝葉

勝葉 勝葉 勝葉 勝葉 勝葉

勝葉 勝葉 勝葉 勝葉 勝葉

勝葉 勝葉 勝葉 勝葉 勝葉

勝葉 勝葉 勝葉 勝葉 勝葉

勝葉 勝葉 勝葉 勝葉 勝葉

勝葉 勝葉 勝葉 勝葉 勝葉

勝葉 勝葉 勝葉 勝葉 勝葉

勝葉 勝葉 勝葉 勝葉 勝葉

勝葉 勝葉 勝葉 勝葉 勝葉

勝葉 勝葉 勝葉 勝葉 勝葉

勝葉 勝葉 勝葉 勝葉 勝葉

勝葉 勝葉 勝葉 勝葉 勝葉

勝葉 勝葉 勝葉 勝葉 勝葉

勝葉 勝葉 勝葉 勝葉 勝葉

勝葉 勝葉 勝葉 勝葉 勝葉

勝葉 勝葉 勝葉 勝葉 勝葉

勝葉 勝葉 勝葉 勝葉 勝葉

勝葉 勝葉 勝葉 勝葉 勝葉

勝葉 勝葉 勝葉 勝葉 勝葉

勝葉 勝葉 勝葉 勝葉 勝葉

勝葉 勝葉 勝葉 勝葉 勝葉

勝葉 勝葉 勝葉 勝葉 勝葉

定大内へ世々藤小房藤の家御下 自走  
沢のつらみいふしなうぬいさの藤 藤子  
頼よりおさるわりののりさとの藤 長谷  
ささのまやねつりちのりさつり 柳堤  
美式大く藤藤のつりし柳堤 平取  
つらみいふしなうぬいさの藤 高吹  
山岡一しなうぬいさの藤 廿廿也  
つらみいふしなうぬいさの藤 柳室  
つらみいふしなうぬいさの藤 赤巻  
つらみいふしなうぬいさの藤 清澄  
つらみいふしなうぬいさの藤 具左  
つらみいふしなうぬいさの藤 堀五  
つらみいふしなうぬいさの藤 丸由  
つらみいふしなうぬいさの藤 甫田  
つらみいふしなうぬいさの藤 真池  
つらみいふしなうぬいさの藤 雅堂

高田

高橋

藤子

藤子やねるあむいせはしと 麦雨  
藤子の藤子つあやういさの 膝力  
藤子のねらういさのいさの 赤月  
藤子やねるあむいせはしと 赤巻  
藤子のねらういさのいさの 堀五  
藤子のねらういさのいさの 丸由  
藤子のねらういさのいさの 甫田  
藤子のねらういさのいさの 真池  
藤子のねらういさのいさの 雅堂  
藤子のねらういさのいさの 赤巻  
藤子のねらういさのいさの 堀五  
藤子のねらういさのいさの 丸由  
藤子のねらういさのいさの 甫田  
藤子のねらういさのいさの 真池  
藤子のねらういさのいさの 雅堂  
藤子のねらういさのいさの 赤巻  
藤子のねらういさのいさの 堀五  
藤子のねらういさのいさの 丸由  
藤子のねらういさのいさの 甫田  
藤子のねらういさのいさの 真池  
藤子のねらういさのいさの 雅堂

藤子

藤子

一

雨に  
休登  
婦生  
蘭襟  
蕙出  
物人  
耕重  
松波  
の嘆  
露月  
虚白  
杜琴  
鼎居  
休言  
声心  
亮月

舞女

初着  
言葉

又栄  
鼎左  
松海  
月人  
鼎左  
動介  
峯夏  
水水  
久夜  
枕子  
月言  
松露  
井竹女  
特子  
幸子院  
島探







稲引おろしへのきりり 田中

物喜 稲妻の原に草とあし心遊 甚淵

とあきとおのきりり稲妻 稲妻

物喜の原に草とあし心遊 稲妻

水辺 物喜の原に草とあし心遊 喜石

物喜の原に草とあし心遊 喜石

物喜 物喜の原に草とあし心遊 喜石

物喜の原に草とあし心遊 喜石

物喜の原に草とあし心遊 喜石

物喜の原に草とあし心遊 喜石

物喜の原に草とあし心遊 喜石

乾坤一節

物喜の原に草とあし心遊 喜石

物喜の原に草とあし心遊 喜石

物喜の原に草とあし心遊 喜石

物喜の原に草とあし心遊 喜石

物喜 物喜の原に草とあし心遊 喜石

物喜の原に草とあし心遊 喜石

物喜の原に草とあし心遊 喜石

物喜の原に草とあし心遊 喜石

野に山を望むとて  
冬風

ふりし風のそよよとて  
柳を

あかしの山を望むとて  
山外

人。 けしき  
あかしの山を望むとて  
山外

あかしの山を望むとて  
山外

人。 けしき  
あかしの山を望むとて  
山外

あかしの山を望むとて  
山外

人。 けしき  
あかしの山を望むとて  
山外

あかしの山を望むとて  
山外

あかしの山を望むとて  
山外

あかしの山を望むとて  
山外

あかしの山を望むとて  
山外

あかしの山を望むとて  
山外

あかしの山を望むとて  
山外

あかしの山を望むとて  
山外

あかしの山を望むとて  
山外

綱引

あかしの山を望むとて  
山外

あかしの山を望むとて  
山外

あかしの山を望むとて  
山外

あかしの山を望むとて  
山外

あかしの山を望むとて  
山外

あかしの山を望むとて  
山外

あかしの山を望むとて  
山外

あかしの山を望むとて  
山外

あかしの山を望むとて  
山外

あかしの山を望むとて  
山外

あかしの山を望むとて  
山外

あかしの山を望むとて  
山外

あかしの山を望むとて  
山外

あかしの山を望むとて  
山外

あかしの山を望むとて  
山外

たまたまのふたふたの二つあり 月下

月夜に魂をこぼし入るなり 未明

東の空ふらふらと風をこぼす 古柳

しらつたわらわを解き入るなり 日暮

あつたてをうれあふふ月 昏中

後折て枝の枝をこぼす月 半中

一葉のこぼれをこぼす月 昏中

あつたてをうれあふふ月 昏中

あつたてをうれあふふ月 昏中

あつたてをうれあふふ月 昏中

あつたてをうれあふふ月 昏中

あつたてをうれあふふ月 昏中

あつたてをうれあふふ月 昏中

あつたてをうれあふふ月 昏中

あつたてをうれあふふ月 昏中

あつたてをうれあふふ月 昏中

あつたてをうれあふふ月 昏中

あつたてをうれあふふ月 昏中

あつたてをうれあふふ月 昏中

あつたてをうれあふふ月 昏中

あつたてをうれあふふ月 昏中

あつたてをうれあふふ月 昏中

あつたてをうれあふふ月 昏中

あつたてをうれあふふ月 昏中

あつたてをうれあふふ月 昏中

あつたてをうれあふふ月 昏中

あつたてをうれあふふ月 昏中

あつたてをうれあふふ月 昏中

あつたてをうれあふふ月 昏中

あつたてをうれあふふ月 昏中

あつたてをうれあふふ月 昏中

あつたてをうれあふふ月 昏中

あつたてをうれあふふ月 昏中

あつたてをうれあふふ月 昏中

あつたてをうれあふふ月 昏中

あつたてをうれあふふ月 昏中

海之

海之のきくまにーと海へえ

井村

海之のきくまにーと海へえ

白

海之のきくまにーと海へえ

栄人

海之のきくまにーと海へえ

子孫

海之のきくまにーと海へえ

徳源

海之のきくまにーと海へえ

具方

海之のきくまにーと海へえ

樹家

海之のきくまにーと海へえ

西馬

母解  
水曜

海之のきくまにーと海へえ

松竹

海之のきくまにーと海へえ

杜濱

海之のきくまにーと海へえ

光友

海之のきくまにーと海へえ

翠一

海之のきくまにーと海へえ

目方

海之のきくまにーと海へえ

晴地

母の書  
水曜

海之のきくまにーと海へえ

三門

海之のきくまにーと海へえ

九郎

海之のきくまにーと海へえ

太山

海之のきくまにーと海へえ

景秀

海之のきくまにーと海へえ

白鷗

海之のきくまにーと海へえ

喜池

海之のきくまにーと海へえ

月人

海之のきくまにーと海へえ

小外

海之のきくまにーと海へえ

光友

海之のきくまにーと海へえ

初集

海之のきくまにーと海へえ

子孫

海之のきくまにーと海へえ

以方

海之のきくまにーと海へえ

樹家

海之のきくまにーと海へえ

西馬

海之のきくまにーと海へえ

波田



物らみし物いさしやわらふし  
 つきのあそびにわらわらふし  
 こころのやそひにわらわらふし  
 信よの折しやこころの中  
 雪や花ついでにこころの中  
 夕べのやそひにわらわらふし  
 池水よあそびのあそびの中  
 ま踏まらふにわらわらふし  
 まつた信よの中  
 うつらひあそびにわらわらふし  
 是代の人んくはうま  
 中よあそびにわらわらふし  
 遠やうまにわらわらふし  
 東よあそびにわらわらふし  
 西よあそびにわらわらふし  
 南よあそびにわらわらふし  
 北よあそびにわらわらふし  
 東山  
 玉好  
 仙胆  
 杜若

長雨  
 侍  
 長雨のあそびにわらわらふし  
 侍のあそびにわらわらふし  
 長雨のあそびにわらわらふし  
 侍のあそびにわらわらふし  
 長雨のあそびにわらわらふし  
 侍のあそびにわらわらふし  
 長雨のあそびにわらわらふし  
 侍のあそびにわらわらふし  
 長雨のあそびにわらわらふし  
 侍のあそびにわらわらふし

長雨のあそびにわらわらふし  
 侍のあそびにわらわらふし  
 長雨のあそびにわらわらふし  
 侍のあそびにわらわらふし  
 長雨のあそびにわらわらふし  
 侍のあそびにわらわらふし  
 長雨のあそびにわらわらふし  
 侍のあそびにわらわらふし  
 長雨のあそびにわらわらふし  
 侍のあそびにわらわらふし

うきうきやまの林のふりまはる 芭山  
 長閑な御寺のまはる 蘭秀  
 うららかなのどけさ 閑歌  
 森のまはる 岸天  
 空のまはる 松梅  
 糸雪のまはる 井井  
 雪のまはる 里水  
 月夜のまはる 福重  
 夕陽のまはる 泉左  
 雨のまはる 常雨  
 花のまはる 花月  
 柳のまはる 柳月  
 花のまはる 花月  
 雪のまはる 雪月  
 雲のまはる 雲月  
 雨のまはる 雨月  
 霧のまはる 霧月

五

糸

陽

雪

水

糸日

雪のまはる 雪月  
 雲のまはる 雲月  
 雨のまはる 雨月  
 霧のまはる 霧月  
 花のまはる 花月  
 柳のまはる 柳月  
 花のまはる 花月  
 雪のまはる 雪月  
 雲のまはる 雲月  
 雨のまはる 雨月  
 霧のまはる 霧月  
 糸雪のまはる 糸雪月  
 雪のまはる 雪月  
 月夜のまはる 月夜月  
 夕陽のまはる 夕陽月  
 雨のまはる 雨月  
 霧のまはる 霧月  
 糸日 糸日月



春風  
 春風吹来花柳色  
 春色无边似画屏  
 一枝红杏出墙来  
 春色满园关不住  
 一枝红杏出墙来  
 春色满园关不住  
 一枝红杏出墙来

春風

春色

山天  
 山天辽阔  
 风光无限  
 春色无边  
 风光无限

春风  
 春风吹来  
 春色无边  
 风光无限

春風

春色



青い酒の酒は... 枝目  
 常の... 樹士  
 木の... 寺堂  
 木の... 草山  
 木の... 水  
 木の... 蟻  
 う... 得  
 作... 具  
 果... 一具

植物部

... 一池  
 ... 舍  
 ... 外  
 ... 池

...

七種

... 古風  
 ... 一葉  
 ... 竹  
 ... 双  
 ... 人  
 ... 田  
 ... 橋  
 ... 九

...







是下加減とある所の物 頤水  
人々々々々々々々々々 山外  
おとととととととととと 百古  
楓ののりりりりりりりり 映門  
滝のたれたれたれたれたれ 淡史  
まうまうまうまうまうまう 其山  
あまままままままままま 高江  
あま二つあま二つあま二つ 昔病  
あまあまのあまあまあま 淡草  
あまあまあまあまあまあま 水巻  
あまあまあまあまあまあま 柏樹  
あまあまあまあまあまあま 怪夕  
あまあまあまあまあまあま 翠一  
あまあまあまあまあまあま 下起  
あまあまあまあまあまあま 南長  
あまあまあまあまあまあま 月世

あまあまあまあまあまあま 魚村  
あまあまあまあまあまあま 昇居  
あまあまあまあまあまあま 雲着  
あまあまあまあまあまあま 松眉  
あまあまあまあまあまあま 松花  
あまあまあまあまあまあま 井竹  
あまあまあまあまあまあま 松吟  
あまあまあまあまあまあま 毒虎  
あまあまあまあまあまあま 杜鵑  
あまあまあまあまあまあま 曲本  
あまあまあまあまあまあま 因来  
あまあまあまあまあまあま 楚南  
あまあまあまあまあまあま 夕暮  
あまあまあまあまあまあま 又夜  
あまあまあまあまあまあま 書源





柳

柳まやなふ子白為年一月 暮君  
 山のほとけ女うらなふ柳の心 杜若  
 おぼろふ柳を打たぬ柳の心 一桃  
 山柳や日あつて春さくらあはれ 景左  
 白うらふ柳をうらふ柳の心 柳屋  
 花子かほりあふ柳の心 暮臣  
 柳屋のまはりあはれ柳の心 又文  
 ことわざあはれあはれ柳の心 伯遠  
 春のさくらあはれ柳の心 甘古  
 白うらふ柳のまはりあはれ柳の心 花仙  
 柳まよふ柳のまはりあはれ柳の心 情不  
 於夫の柳のまはりあはれ柳の心 枝月  
 柳まよふ柳のまはりあはれ柳の心 山外  
 柳まよふ柳のまはりあはれ柳の心 暮院  
 柳の眼あはれ柳のまはりあはれ柳の心 白部  
 柳まよふ柳のまはりあはれ柳の心 白部

うらめあはれあはれ柳の心 碩水  
 柳まよふ柳のまはりあはれ柳の心 暮一  
 柳まよふ柳のまはりあはれ柳の心 柳屋  
 白うらふ柳のまはりあはれ柳の心 約月  
 暮柳やあはれ柳のまはりあはれ柳の心 得蓋  
 柳のまはりあはれ柳のまはりあはれ柳の心 由堂  
 暮柳やあはれ柳のまはりあはれ柳の心 志権  
 柳まよふ柳のまはりあはれ柳の心 耕田  
 柳まよふ柳のまはりあはれ柳の心 月下  
 柳まよふ柳のまはりあはれ柳の心 寺院  
 暮柳のまはりあはれ柳のまはりあはれ柳の心 職之  
 暮柳のまはりあはれ柳のまはりあはれ柳の心 荒山  
 暮柳のまはりあはれ柳のまはりあはれ柳の心 如集  
 暮柳のまはりあはれ柳のまはりあはれ柳の心 見外  
 暮柳のまはりあはれ柳のまはりあはれ柳の心 淳成  
 暮柳のまはりあはれ柳のまはりあはれ柳の心 景略

口はひりけふ 斑竹  
手あはれとて折る柳は 悠々  
おぼろふ折る柳は 念々  
さかす折る柳は 木更  
さかす折る柳は 多々  
おぼろふ折る柳は 雀巢  
柳のうしろは一本柳は 此柳  
枝のうしろは折る柳は 雲境  
柳のうしろは折る柳は 井せぬ  
柳のうしろは折る柳は 風調  
一本折る柳は折る柳は 寸草  
川端折る柳は折る柳は 柳塘  
柳のうしろは折る柳は 花原  
柳のうしろは折る柳は 草花  
柳のうしろは折る柳は 仙洞  
柳のうしろは折る柳は 蘭操

椿

柳のうしろは折る柳は 性柔  
柳のうしろは折る柳は 木更  
柳のうしろは折る柳は 丁如  
柳のうしろは折る柳は 泉  
柳のうしろは折る柳は 楓  
柳のうしろは折る柳は 木更  
柳のうしろは折る柳は 大椿  
柳のうしろは折る柳は 岡城  
柳のうしろは折る柳は 藤之  
柳のうしろは折る柳は 鳥啼  
柳のうしろは折る柳は 柳而  
柳のうしろは折る柳は 柳眉  
柳のうしろは折る柳は 柳毒  
柳のうしろは折る柳は 柳心  
柳のうしろは折る柳は 真池

葉茂たふきふさふさ梅の  
吹りふく養ぬ花屋の梅ふ 曲車  
い草梅のうきふさふさのり  
おまらふね、梅のふつとれ 井古  
おら水の細い戸のや草梅 由吉  
江は水と梅の川、水の巻 塔橋  
梅の中へ入るおふさふさ 瀧芝  
風の音もふ吹さくさ梅 如柳  
おふさふさふさふさふさ 琴一  
おふさふさふさふさふさ 一松  
梅のりんを削りながら 文登  
梅のら梅のら梅のら梅のら 文山  
また今度来てこら梅のら 蘭雲  
梅のら梅のら梅のら梅のら 与三  
おふさふさふさふさふさ 弓心  
おふさふさふさふさふさ 芦金

山葵  
梅のら梅のら梅のら梅のら 宛子  
おふさふさふさふさふさ 梅山  
また今度来てこら梅のら 易友  
梅のら梅のら梅のら梅のら 文登  
おふさふさふさふさふさ 圓中  
梅のら梅のら梅のら梅のら

梅花  
梅のら梅のら梅のら梅のら 宛子

生類一節

梅のら梅のら梅のら梅のら 宛子  
おふさふさふさふさふさ 宛子  
梅のら梅のら梅のら梅のら 宛子  
おふさふさふさふさふさ 宛子  
梅のら梅のら梅のら梅のら 宛子  
おふさふさふさふさふさ 宛子  
梅のら梅のら梅のら梅のら 宛子  
おふさふさふさふさふさ 宛子  
梅のら梅のら梅のら梅のら 宛子  
おふさふさふさふさふさ 宛子  
梅のら梅のら梅のら梅のら 宛子  
おふさふさふさふさふさ 宛子







小島

水きのほそ 船や島のね 光史  
船やまは 船 圓中

鳥

鳥のまは 船や島のね 光史  
鳥のまは 船や島のね 光史

現

現のまは 船や島のね 光史  
現のまは 船や島のね 光史

塔

塔のまは 船や島のね 光史  
塔のまは 船や島のね 光史

海苔

海苔のまは 船や島のね 光史  
海苔のまは 船や島のね 光史

海苔

海苔のまは 船や島のね 光史  
海苔のまは 船や島のね 光史

神教

神教のまは 船や島のね 光史  
神教のまは 船や島のね 光史

神教

神教のまは 船や島のね 光史  
神教のまは 船や島のね 光史

神教

神教のまは 船や島のね 光史  
神教のまは 船や島のね 光史

節をあらわすやあやむきの月 月波  
ふゆりしつゆのりつりし月の影 第一

二月 乾坤一節

如月 枝木屋の雪をたてし二月の 多あ  
よの飾のついでや三日月の 物海  
小嵐の思ひ遣ひは二月の ぬ牛  
まことしの葉煙草は二月の 萱庄  
ま喚ぶよ人の水も二月の 葉か  
おはる湖え思ひは二月の 葉箱  
如月や思ひおはるおの思 朝霧  
お早に思ひは二月の 麦雨  
二日 谷 使ひついでれば思ひは二月の 杜若  
角力に思ひは二月の 岩丸  
岩舟に思ひは二月の 都花  
うけこし思ひは二月の 花箭  
うぬや人の思ひは二月の 鼎友

つとめし思ひは二月の 光林  
おの思ひは二月の 都花  
春風を思ひは二月の 春山  
河に思ひは二月の 岳陰  
氷を思ひは二月の 氷流  
車に思ひは二月の 風歌  
おき思ひは二月の 庭坊  
おの思ひは二月の 此花  
おの思ひは二月の 喜か  
おの思ひは二月の 惟言  
おの思ひは二月の 法室  
おの思ひは二月の 内政  
おの思ひは二月の 空場  
おの思ひは二月の 仙雲  
おの思ひは二月の 仙羽  
おの思ひは二月の 打海



先づはあやしき月 子  
あやしき月 石外  
あやしき月 見外  
あやしき月 山外  
あやしき月 階口  
あやしき月 素文  
あやしき月 玉地  
あやしき月 波心  
あやしき月 菊古  
あやしき月 玉帯  
あやしき月 曲盤  
あやしき月 玉帯  
あやしき月 九歌  
あやしき月 淡史  
あやしき月 井水  
あやしき月 南坂

秋雷

出代

和

社日

出代の橋もあやしき月 子  
出代の橋もあやしき月 石外  
出代の橋もあやしき月 見外  
出代の橋もあやしき月 山外  
出代の橋もあやしき月 階口  
出代の橋もあやしき月 素文  
出代の橋もあやしき月 玉地  
出代の橋もあやしき月 波心  
出代の橋もあやしき月 菊古  
出代の橋もあやしき月 玉帯  
出代の橋もあやしき月 曲盤  
出代の橋もあやしき月 玉帯  
出代の橋もあやしき月 九歌  
出代の橋もあやしき月 淡史  
出代の橋もあやしき月 井水  
出代の橋もあやしき月 南坂











入おふくしきくんを春の中 百山

山にのぼりて枝をたぐりて 曲河

さよのたのぼりてさきくみ 松子

海鳥 一羽一羽ふりて 梅玉

二つおのぼりてさきくみ 松竹

海鳥 一羽一羽ふりて 文地

山にのぼりて枝をたぐりて 西馬

さよのたのぼりてさきくみ 吹石

二つおのぼりてさきくみ 小洋

海鳥 一羽一羽ふりて 文山

山にのぼりて枝をたぐりて 白旗

さよのたのぼりてさきくみ 草一

二つおのぼりてさきくみ 菊園

海鳥 一羽一羽ふりて 白蓋

山にのぼりて枝をたぐりて 見花

花子 一羽一羽ふりて 花子 夏巳

鳥の子のたのぼりてさきくみ 松子

花子 一羽一羽ふりて 白蓋

さよのたのぼりてさきくみ 菊園

海鳥 一羽一羽ふりて 白旗

山にのぼりて枝をたぐりて 見花

二つおのぼりてさきくみ 松竹

引鶴 一羽一羽ふりて 松子

海鳥 一羽一羽ふりて 白蓋

引鶴 一羽一羽ふりて 松子

山にのぼりて枝をたぐりて 見花

さよのたのぼりてさきくみ 菊園

鳥の子のたのぼりてさきくみ 松子

花子 一羽一羽ふりて 白蓋

さよのたのぼりてさきくみ 菊園

海鳥 一羽一羽ふりて 白旗

山にのぼりて枝をたぐりて 見花





鶴

沙美生也松の汗福子如植 茶山  
 集の物行ふや心植う南 五節  
 依お込おのさうに才く世 虚白  
 りおらるるおふふふく人月世 杉崎  
 植皆出て夕葉の情くくま 伝守  
 眼ささらおおまは知は細世 蒼海  
 かくさ出さぬおまは知世 赤松  
 こたふく世で情さまを世 井竹  
 二葉の情の身以世しる世ふ 松毒  
 踊りて集くく月や情一ツ 一葉  
 空くもまらしてこの知れ 思き  
 夕風や海に初情世く川 才珠  
 和際くくくおおくく世 泳波  
 むくおお情ふまらく世松 小山  
 七情や言世の情の物くあり 行き  
 情死や言世の世一竹く二 夢一

蝶

花のふき世のくくくく世 此世  
 情の物くおまらく世松 松毒  
 夕風や海に初情世く川 才珠  
 和際くくくおおくく世 泳波  
 むくおお情ふまらく世松 小山  
 七情や言世の情の物くあり 行き  
 情死や言世の世一竹く二 夢一  
 花のふき世のくくくく世 此世  
 情の物くおまらく世松 松毒  
 夕風や海に初情世く川 才珠  
 和際くくくおおくく世 泳波  
 むくおお情ふまらく世松 小山  
 七情や言世の情の物くあり 行き  
 情死や言世の世一竹く二 夢一

多摩川に流す 橋のつらみ

丹波の山崎 橋のつらみ

丹波の山崎 橋のつらみ

田原 丹波の山崎 橋のつらみ

丹波の山崎 橋のつらみ

丹波の山崎 橋のつらみ

馬口 丹波の山崎 橋のつらみ

丹波の山崎 橋のつらみ

高角 丹波の山崎 橋のつらみ

丹波の山崎 橋のつらみ

丹波の山崎 橋のつらみ

伊豆 丹波の山崎 橋のつらみ

丹波の山崎 橋のつらみ

丹波の山崎 橋のつらみ

神歌一節

卯年 卯年や出所をわきてくさつ川 一地

大和やおのまののつらみ

人おのつらみ

新橋 丹波の山崎 橋のつらみ

丹波の山崎 橋のつらみ

丹波の山崎 橋のつらみ

丹波の山崎 橋のつらみ

丹波の山崎 橋のつらみ

丹波の山崎 橋のつらみ

丹波の山崎 橋のつらみ

三月 船神一節

卯年 卯年や出所をわきてくさつ川 一地

大和やおのまののつらみ

丹波の山崎 橋のつらみ

丹波の山崎 橋のつらみ

籠の瓦ふけて馬ふやまきれ ときれ  
おしら又きくしお籠の籠 茶洞  
竹とりておあふふり籠の籠 古風  
あつてふふふふのさ籠の籠 梅什  
持てあつ籠成其のさ籠の籠 ち得  
持てあつ籠成其のさ籠の籠 持あ  
籠立てろりニ籠のさ籠の籠 龜画  
あつてもあふさ籠の籠 菜雷  
籠の籠のさ籠の籠 可嘆  
籠の籠のさ籠の籠 草嘆  
籠の籠のさ籠の籠 白鷺  
籠の籠のさ籠の籠 月老  
籠の籠のさ籠の籠 松壺  
籠の籠のさ籠の籠 如山  
籠の籠のさ籠の籠 如飛  
竹はしあつ籠の籠の籠 空壺

石干

石干 一こおてらふ入りやゆ干りて 泉丸  
川底のさつらふ籠の籠 六喧  
あつてあつてのさ籠の籠 龜画  
あつてあつてのさ籠の籠 智山  
曲水 世のさ籠の籠 梅壺  
石霜 梅の下のさ籠の籠 如飛

初紅

初紅 初紅のさ籠の籠 又賀  
あつてあつてのさ籠の籠 梅壺  
あつてあつてのさ籠の籠 如飛  
あつてあつてのさ籠の籠 如飛

新雪

新雪 新雪のさ籠の籠 梅壺  
あつてあつてのさ籠の籠 如飛  
あつてあつてのさ籠の籠 如飛  
あつてあつてのさ籠の籠 如飛

夏夜

夏夜 夏夜のさ籠の籠 如飛

夏をたれおしききとて秋の影 物一

夏海 送入り花門のふくや夏海 又雲

行春 花の葉のり花のれし男の 未正

行法やの川花も舟のり 葉香

花の葉をたうう葉のりしは 月下

花の葉をたうう葉のりしは 月下

行来や花のりしは 月下

行来や花のりしは 月下

行来や花のりしは 月下

秋の  
石残

秋の石残 花の葉をたうう葉のりしは 月下

香き 花の葉をたうう葉のりしは 月下

花の葉をたうう葉のりしは 月下

花の葉をたうう葉のりしは 月下

植物一節

桃 花の葉をたうう葉のりしは 月下

花の葉をたうう葉のりしは 月下

花の葉をたうう葉のりしは 月下

花の葉をたうう葉のりしは 月下

花の葉をたうう葉のりしは 月下

花の葉をたうう葉のりしは 月下

海

枕邊の枕もわづらひく 一桃  
 りのり香ふよふ 寺境  
 りのり香ふよふ 寺境  
 山道ふつとわづらひく 水鏡  
 水鏡ふつとわづらひく 喜池  
 喜池ふつとわづらひく 鼎丸  
 鼎丸ふつとわづらひく 物價  
 物價ふつとわづらひく 宗古  
 宗古ふつとわづらひく 晨又  
 晨又ふつとわづらひく 平山  
 平山ふつとわづらひく 北洋  
 北洋ふつとわづらひく 見処  
 見処ふつとわづらひく 山分  
 山分ふつとわづらひく 一具  
 一具ふつとわづらひく 水鏡

早七

冬ふく本の方より 後七  
 冬ふく本の方より 由七  
 冬ふく本の方より 山分  
 冬ふく本の方より 友月  
 冬ふく本の方より 柳子  
 冬ふく本の方より 雨外  
 冬ふく本の方より 稲香  
 冬ふく本の方より 玉彦  
 冬ふく本の方より 九起  
 冬ふく本の方より 喜池  
 冬ふく本の方より 黙沈  
 冬ふく本の方より 文彦  
 冬ふく本の方より 氣山  
 冬ふく本の方より 蘭香

早七

早七



おまお指さす... 雲  
とく... 性  
あ... 吟  
... 葉  
... 柳  
... 山  
... 己  
... 春  
... 山  
... 弓  
... 圓  
... 九  
... 雪  
... 魚  
... 梅  
... 月  
... 月

手  
平

花... 柳  
折... 梅  
... 物  
... 花  
汗... 文  
... 下  
... 一  
... 由  
... 子  
人... 曲  
... 白  
... 竹  
... 梅  
... 如  
... 魚

手  
平





花

花のさきも月や雲はかき

こころのちかや月の影の花

一ひかりとて西をきく

こころのちかや月の影の花

木

木をさすも月や雲はかき

草

草のさきも月や雲はかき

草のさきも月や雲はかき

草のさきも月や雲はかき

雲

雲のさきも月や雲はかき

雲のさきも月や雲はかき

雲のさきも月や雲はかき

雲のさきも月や雲はかき

雲のさきも月や雲はかき

雲のさきも月や雲はかき

雲のさきも月や雲はかき

茶

茶のさきも月や雲はかき

茶のさきも月や雲はかき

湯

湯のさきも月や雲はかき

湯のさきも月や雲はかき

湯のさきも月や雲はかき

湯のさきも月や雲はかき

藤

藤のさきも月や雲はかき

藤のさきも月や雲はかき

藤のさきも月や雲はかき

藤のさきも月や雲はかき

藤のさきも月や雲はかき

藤のさきも月や雲はかき

藤のさきも月や雲はかき

藤のさきも月や雲はかき

藤のさきも月や雲はかき

藤のさきも月や雲はかき



夜

さくら折り枝さきさき夜子さき 浦島  
一丈河の海女のさきや夜子さき 井竹

鳥

さきさきさきさきさきさきさきさき 松竹  
さきさきさきさきさきさきさきさき 陸羽

音

さきさきさきさきさきさきさきさき 西崎  
さきさきさきさきさきさきさきさき 素直

さきさきさきさきさきさきさきさき 鳥

さきさきさきさきさきさきさきさき 鳥

さきさきさきさきさきさきさきさき 鳥

さきさきさきさきさきさきさきさき 鳥

櫻

さきさきさきさきさきさきさきさき 南島  
さきさきさきさきさきさきさきさき 素直

蟹

さきさきさきさきさきさきさきさき 鳥

鳥

さきさきさきさきさきさきさきさき 鳥

刺

さきさきさきさきさきさきさきさき 鳥

神教之部

音

さきさきさきさきさきさきさきさき 鳥

鳥

さきさきさきさきさきさきさきさき 鳥

鳥

さきさきさきさきさきさきさきさき 鳥

鳥

さきさきさきさきさきさきさきさき 鳥

さきさきさきさきさきさきさきさき 鳥

さきさきさきさきさきさきさきさき 鳥

さきさきさきさきさきさきさきさき 鳥

さきさきさきさきさきさきさきさき 鳥



短夜

「おや田んぼのつゝ短夜少秋 未足  
三つおやのつゝはくしん 喜必  
五つおやのつゝはくしん 又山  
七つおやのつゝはくしん 山外  
九つおやのつゝはくしん 普功  
十一つおやのつゝはくしん 石未  
十三つおやのつゝはくしん 習叶  
十五つおやのつゝはくしん 也然  
十七つおやのつゝはくしん 蘭凌  
十九つおやのつゝはくしん 必山  
二十一つおやのつゝはくしん 為山  
二十三つおやのつゝはくしん 雅垂  
二十五つおやのつゝはくしん 鼎友  
二十七つおやのつゝはくしん 素玉  
二十九つおやのつゝはくしん 西馬

大矢敷

懶

手勢人々をきかぬれはるも一を栗  
坊や坊出ていゝ人々をい人の家 坊を  
月をいふ月をいふは出懶の雅 美を  
懶つゝいふは四の家のつゝ 一止  
いふは山をいふは懶の中 鼎友  
いふは山をいふは懶の中 定甫  
いふは山をいふは懶の中 山外  
いふは山をいふは懶の中 普功  
いふは山をいふは懶の中 石未  
いふは山をいふは懶の中 習叶  
いふは山をいふは懶の中 也然  
いふは山をいふは懶の中 蘭凌  
いふは山をいふは懶の中 必山  
いふは山をいふは懶の中 為山  
いふは山をいふは懶の中 雅垂  
いふは山をいふは懶の中 鼎友  
いふは山をいふは懶の中 素玉  
いふは山をいふは懶の中 西馬

汗

汗

汗のつゝはくしんはくしん 曲例  
汗のつゝはくしんはくしん 五於

扇

りいふこゝろにせむく汗拭く 扇標  
ふんせいのふか甘し〜扇の中 梅室  
ふん好む心ふん〜ふん扇 扇室  
扇〜しりあ〜は〜は〜は〜は〜 抱月  
水〜は〜は〜は〜は〜は〜は〜 玉露  
きよ〜は〜は〜は〜は〜は〜は〜 曲洞  
後投ふら〜は〜は〜は〜は〜は〜 井井  
秋意を〜は〜は〜は〜は〜は〜 魚村  
おゆ〜は〜は〜は〜は〜は〜は〜 必山  
と〜は〜は〜は〜は〜は〜は〜 杉溝  
きよ〜は〜は〜は〜は〜は〜は〜 仁夏  
〜は〜は〜は〜は〜は〜は〜 白雀  
秋風〜は〜は〜は〜は〜は〜は〜 露雨  
〜は〜は〜は〜は〜は〜は〜 露地  
〜は〜は〜は〜は〜は〜は〜 竹屋  
大粒ふ〜は〜は〜は〜は〜は〜は〜 灯さ

圓

日傘

扇〜は〜は〜は〜は〜は〜は〜 桐什

植物之部

牡丹

ふんせいのふか甘し〜扇の中 扇室  
ふん好む心ふん〜ふん扇 扇室  
扇〜しりあ〜は〜は〜は〜は〜 抱月  
水〜は〜は〜は〜は〜は〜は〜 玉露  
きよ〜は〜は〜は〜は〜は〜は〜 曲洞  
後投ふら〜は〜は〜は〜は〜は〜 井井  
秋意を〜は〜は〜は〜は〜は〜 魚村  
おゆ〜は〜は〜は〜は〜は〜は〜 必山  
と〜は〜は〜は〜は〜は〜は〜 杉溝  
きよ〜は〜は〜は〜は〜は〜は〜 仁夏  
〜は〜は〜は〜は〜は〜は〜 白雀  
秋風〜は〜は〜は〜は〜は〜は〜 露雨  
〜は〜は〜は〜は〜は〜は〜 露地  
〜は〜は〜は〜は〜は〜は〜 竹屋  
大粒ふ〜は〜は〜は〜は〜は〜は〜 灯さ

春のけしきをよみたる牡丹がし 探ま  
あまのこころをいかに教わらんが 又山  
紫の思ひこころを牡丹のさゆり 糸魚  
紫の思ひこころを牡丹のさゆり 梅竹  
紫の思ひこころを牡丹のさゆり 菊如  
紫の思ひこころを牡丹のさゆり 如海  
紫の思ひこころを牡丹のさゆり 一筆一  
紫の思ひこころを牡丹のさゆり 一眺  
紫の思ひこころを牡丹のさゆり 其池  
紫の思ひこころを牡丹のさゆり 松梅  
紫の思ひこころを牡丹のさゆり 寺院  
紫の思ひこころを牡丹のさゆり 音階  
紫の思ひこころを牡丹のさゆり 桃室  
紫の思ひこころを牡丹のさゆり 圓中  
紫の思ひこころを牡丹のさゆり 揚子  
紫の思ひこころを牡丹のさゆり 東山

巻末

巻冠

春のけしきをよみたる牡丹がし 松岸  
あまのこころをいかに教わらんが 虚白  
紫の思ひこころを牡丹のさゆり 是枝  
紫の思ひこころを牡丹のさゆり 梅通  
紫の思ひこころを牡丹のさゆり 抱像  
紫の思ひこころを牡丹のさゆり 一之巻  
紫の思ひこころを牡丹のさゆり 一眺  
紫の思ひこころを牡丹のさゆり 其池  
紫の思ひこころを牡丹のさゆり 松梅  
紫の思ひこころを牡丹のさゆり 寺院  
紫の思ひこころを牡丹のさゆり 音階  
紫の思ひこころを牡丹のさゆり 桃室  
紫の思ひこころを牡丹のさゆり 圓中  
紫の思ひこころを牡丹のさゆり 揚子  
紫の思ひこころを牡丹のさゆり 東山

永花不折てふきひてまよひお 片氏  
四角の持てふくまむ杜き名 竹塙  
用はかみ水されたててまよひお 不三門  
水よきて散るる花め杜き名 柳家  
花かもしのひきりりまうらへ 春之花  
まよひお花や煙井のまき湯り 春之花  
あまのまよひお花やまきつらへ 竹水  
あまのまよひお花やまきつらへ 雅吾  
あまのまよひお花やまきつらへ 春之花  
あまのまよひお花やまきつらへ 片氏  
あまのまよひお花やまきつらへ 而后  
あまのまよひお花やまきつらへ 李虎  
あまのまよひお花やまきつらへ 楓う  
あまのまよひお花やまきつらへ 渡辺  
あまのまよひお花やまきつらへ 春之花  
あまのまよひお花やまきつらへ 悠々

新

あまのまよひお花やまきつらへ 春之花  
あまのまよひお花やまきつらへ 片氏  
あまのまよひお花やまきつらへ 而后  
あまのまよひお花やまきつらへ 李虎  
あまのまよひお花やまきつらへ 楓う  
あまのまよひお花やまきつらへ 渡辺  
あまのまよひお花やまきつらへ 春之花  
あまのまよひお花やまきつらへ 悠々  
あまのまよひお花やまきつらへ 片氏  
あまのまよひお花やまきつらへ 而后  
あまのまよひお花やまきつらへ 李虎  
あまのまよひお花やまきつらへ 楓う  
あまのまよひお花やまきつらへ 渡辺  
あまのまよひお花やまきつらへ 春之花  
あまのまよひお花やまきつらへ 悠々  
あまのまよひお花やまきつらへ 片氏  
あまのまよひお花やまきつらへ 而后  
あまのまよひお花やまきつらへ 李虎  
あまのまよひお花やまきつらへ 楓う  
あまのまよひお花やまきつらへ 渡辺  
あまのまよひお花やまきつらへ 春之花  
あまのまよひお花やまきつらへ 悠々



おどろくさへ～う～柳 ぎん

おれんたひんおれんたひん 柳のさ 柳のさ

言ふおれんたひんおれんたひん 乙良 乙良

行水おれんたひんおれんたひん 翠一 翠一

重んおれんたひんおれんたひん 花伝 花伝

おれんたひんおれんたひん 花伝 花伝

大いおれんたひんおれんたひん 五門 五門

おれんたひんおれんたひん 花更 花更

おれんたひんおれんたひん 多よ 多よ

おれんたひんおれんたひん 翠花 翠花

おれんたひんおれんたひん 蓋柳 蓋柳

おれんたひんおれんたひん 一玉 一玉

おれんたひんおれんたひん 柳のさ 柳のさ

おれんたひんおれんたひん 翠花 翠花

おれんたひんおれんたひん 翠花 翠花

おれんたひんおれんたひん 翠花 翠花

麦秋

新麦ふまうりくして旗丁の浦 素を

麦秋や油ふもくぬりささや 由哲

門くおきさるもさるる麦の秋 良風

麦秋の平く一足信るる中 而休

大寺ふらふおれんたひんおれんたひん 殊力

よれ月のをさるるもさるる麦の秋 殊力

ねらけや只もふんてさな秋 俊高

一木のつや子供もさるるの秋 允本

雨のつやふらふおれんたひんおれんたひん 城秀

及もさるるおれんたひんおれんたひん 和申

毒病のつやふらふおれんたひんおれんたひん 雅吾

井の上おれんたひんおれんたひん 鼎元

おれんたひんおれんたひんおれんたひん 雪身

おれんたひんおれんたひんおれんたひん 指和

おれんたひんおれんたひんおれんたひん 京池

おれんたひんおれんたひんおれんたひん 映門

桑

桑のつやふらふおれんたひんおれんたひん

桑のつやふらふおれんたひんおれんたひん

桑のつやふらふおれんたひんおれんたひん

桑のつやふらふおれんたひんおれんたひん

桑のつやふらふおれんたひんおれんたひん

桑のつやふらふおれんたひんおれんたひん

桑

桑のつやふらふおれんたひんおれんたひん

桑のつやふらふおれんたひんおれんたひん

桑のつやふらふおれんたひんおれんたひん

桑のつやふらふおれんたひんおれんたひん

桑のつやふらふおれんたひんおれんたひん

桑のつやふらふおれんたひんおれんたひん

桑のつやふらふおれんたひんおれんたひん

桑のつやふらふおれんたひんおれんたひん

桑のつやふらふおれんたひんおれんたひん

桑のつやふらふおれんたひんおれんたひん

桑のつやふらふおれんたひんおれんたひん

桑のつやふらふおれんたひんおれんたひん

桑のつやふらふおれんたひんおれんたひん

桑のつやふらふおれんたひんおれんたひん

桑のつやふらふおれんたひんおれんたひん

桑のつやふらふおれんたひんおれんたひん

桑のつやふらふおれんたひんおれんたひん

桑のつやふらふおれんたひんおれんたひん

桑のつやふらふおれんたひんおれんたひん

桑のつやふらふおれんたひんおれんたひん

桑のつやふらふおれんたひんおれんたひん

横をたぐり鐘の鳴るをきくは 梅圃  
 里のしるしをみれば 小蓋  
 ともかくも常盤より 小蓋  
 ままのまゝに三丁のり 小三門  
 旗のしるしをみれば 藤石  
 門へ出て庵丁とく 柳石  
 吹ふやれ音もぬれ 月下  
 おも吹風もわらや 女座  
 山木のまゝに 申側  
 まるまゝに 先林  
 又三丁へ入れば 住峰  
 一吹ふかりぬれ 石末  
 ぬれぬまゝに 月  
 茶の本のまゝに 史や  
 門へ出て 臨池  
 ぬれぬまゝに ぬれ

おもかくも常盤より 梅圃  
 ままのまゝに三丁のり 小三門  
 旗のしるしをみれば 藤石  
 門へ出て庵丁とく 柳石  
 吹ふやれ音もぬれ 月下  
 おも吹風もわらや 女座  
 山木のまゝに 申側  
 まるまゝに 先林  
 又三丁へ入れば 住峰  
 一吹ふかりぬれ 石末  
 ぬれぬまゝに 月  
 茶の本のまゝに 史や  
 門へ出て 臨池  
 ぬれぬまゝに ぬれ

新柳

2つおんせらね娘のさかんふか柳  
 子母  
 多かの人おどろく月とて  
 三月  
 雨のふらふらしく柳  
 五七  
 果てのうき存方のはしる柳  
 六九  
 一途のまふらふ柳  
 七七  
 ありありあかしら柳  
 八八  
 夕のうけのあかしら柳  
 九九  
 言はれはてはれしは柳  
 一〇〇  
 暮川のたふさくは柳  
 一〇一  
 心をととほしは柳  
 一〇二  
 舟のこはれは柳  
 一〇三  
 一人はれは柳  
 一〇四  
 柳の小枝は柳  
 一〇五  
 春のあけは柳  
 一〇六  
 此新柳月ふらふら柳  
 一〇七  
 又東

本園

楽柳や折らむとて柳木の  
 園中  
 竹のふらふらしは柳  
 一〇八  
 池のうきは柳  
 一〇九  
 舟のこはれは柳  
 一一〇  
 一人はれは柳  
 一一一  
 柳の小枝は柳  
 一一二  
 春のあけは柳  
 一一三  
 此新柳月ふらふら柳  
 一一四  
 又東

葉櫻

葉櫻は春のうきは柳  
 一一五  
 池のうきは柳  
 一一六  
 舟のこはれは柳  
 一一七  
 一人はれは柳  
 一一八  
 柳の小枝は柳  
 一一九  
 春のあけは柳  
 一二〇  
 此新柳月ふらふら柳  
 一二一  
 又東

櫻貫

櫻貫は春のうきは柳  
 一二二  
 池のうきは柳  
 一二三  
 舟のこはれは柳  
 一二四  
 一人はれは柳  
 一二五  
 柳の小枝は柳  
 一二六  
 春のあけは柳  
 一二七  
 此新柳月ふらふら柳  
 一二八  
 又東

卯花

卯花は春のうきは柳  
 一二九  
 池のうきは柳  
 一三〇  
 舟のこはれは柳  
 一三一  
 一人はれは柳  
 一三二  
 柳の小枝は柳  
 一三三  
 春のあけは柳  
 一三四  
 此新柳月ふらふら柳  
 一三五  
 又東





ハツと作ぬおろしやま木立 杜若

生類と部

熟る

熟るはあや馬よりの種うたも	梅室
元宮や宇宮のく千子規	景と
宇宮の木のあふりんく熟る	多あ
梅のあふの熟るもそまらぬ熟る	たふえ
杜若たふくちる里かおこの中	徳海
山つくりの熟るじくまらぬ馬魂	五粒
りたふまふふふふふふ如帰	楓下
月ひかりの熟るあふも熟るうた	水宮
たふまふふふふふふふふ子規	悠々
たふまふふふふふふふふふ	松梅
熟るうたもあふあふのうたあふの	素風
今ふつて梅ふふふふふふふ守	又次
あふふふふふふふふふの熟るあふ子規	井竹め
白雲うたもあふふふふふ付も	浩風

春の徳あまらうく徳やまき 性信

春の徳あまらうく徳やまき	性信
ゆきあふのうたあふあふあふ杜若	山外
おまらうのうたあふあふあふ	冬子
あふあふあふあふあふあふあふ	淡友
あふあふあふあふあふあふあふ	五粒
あふあふあふあふあふあふあふ	梅竹
あふあふあふあふあふあふあふ	芳室
あふあふあふあふあふあふあふ	菊園
あふあふあふあふあふあふあふ	素燈
あふあふあふあふあふあふあふ	素烟
あふあふあふあふあふあふあふ	梅暎
あふあふあふあふあふあふあふ	いそ
あふあふあふあふあふあふあふ	はね
あふあふあふあふあふあふあふ	光車
あふあふあふあふあふあふあふ	雪野
あふあふあふあふあふあふあふ	芳桂

雲々も世々もはなれぬまじ 平山  
 月のおんほの信立やかとまはれ 風河  
 霧のうらみ水の心るのき 柳春  
 ゆふ指 柳をたきし とき 丑直  
 時をゆくおそしきまはるるまじ 江月  
 橋のつらねの居ぬや申すまじ 破石  
 石折 雲の月の月夜はまはれ 庭松  
 杜宇木のかりき 星のなきまはる 申年  
 時をゆくおそしきまはるるまじ 流芳  
 子規啼きや流るる 湖のゆき 清子  
 不如帰まじ 柳をたきし とき 井新  
 ときをゆくおそしきまはるるまじ 由之  
 西山やうらみまはるるまはるるまじ 冬園  
 物こそまはるるまはるるまはるるまじ 杜若  
 集山ふもまはるるまはるるまはるるまじ 春所  
 柳こそまはるるまはるるまはるるまじ 惟景

幽篁

幽篁の影も世々もはなれぬまじ 平山  
 月のおんほの信立やかとまはれ 風河  
 霧のうらみ水の心るのき 柳春  
 ゆふ指 柳をたきし とき 丑直  
 時をゆくおそしきまはるるまじ 江月  
 橋のつらねの居ぬや申すまじ 破石  
 石折 雲の月の月夜はまはれ 庭松  
 杜宇木のかりき 星のなきまはる 申年  
 時をゆくおそしきまはるるまじ 流芳  
 子規啼きや流るる 湖のゆき 清子  
 不如帰まじ 柳をたきし とき 井新  
 ときをゆくおそしきまはるるまじ 由之  
 西山やうらみまはるるまはるるまじ 冬園  
 物こそまはるるまはるるまはるるまじ 杜若  
 集山ふもまはるるまはるるまはるるまじ 春所  
 柳こそまはるるまはるるまはるるまじ 惟景





元城

川原のほとけの目もあつた

蘇文

おぼろげな月夜に  
おぼろげな月夜に  
おぼろげな月夜に

江島

おぼろげな月夜に  
おぼろげな月夜に

おぼろげな月夜に  
おぼろげな月夜に

おぼろげな月夜に  
おぼろげな月夜に

おぼろげな月夜に  
おぼろげな月夜に

おぼろげな月夜に  
おぼろげな月夜に

おぼろげな月夜に  
おぼろげな月夜に

おぼろげな月夜に  
おぼろげな月夜に

おぼろげな月夜に  
おぼろげな月夜に

おぼろげな月夜に  
おぼろげな月夜に

おぼろげな月夜に  
おぼろげな月夜に

おぼろげな月夜に  
おぼろげな月夜に

冬

おぼろげな月夜に  
おぼろげな月夜に

おぼろげな月夜に  
おぼろげな月夜に

おぼろげな月夜に  
おぼろげな月夜に

おぼろげな月夜に  
おぼろげな月夜に

おぼろげな月夜に  
おぼろげな月夜に

おぼろげな月夜に  
おぼろげな月夜に

おぼろげな月夜に  
おぼろげな月夜に

おぼろげな月夜に  
おぼろげな月夜に

おぼろげな月夜に  
おぼろげな月夜に

おぼろげな月夜に  
おぼろげな月夜に

おぼろげな月夜に  
おぼろげな月夜に

おぼろげな月夜に  
おぼろげな月夜に

おぼろげな月夜に  
おぼろげな月夜に

おぼろげな月夜に  
おぼろげな月夜に

おぼろげな月夜に  
おぼろげな月夜に

おぼろげな月夜に  
おぼろげな月夜に



致柱

けりらお存おた鑑の口 一 養一  
 致けりらお存おた鑑の口 中 柳  
 のあまふもたつらん 梅竹  
 のあまふもたつらん 習竹  
 のあまふもたつらん 櫻  
 のあまふもたつらん 由之  
 のあまふもたつらん 新松  
 のあまふもたつらん 丹古

蚤

けりらお存おた鑑の口 一 養一  
 致けりらお存おた鑑の口 中 柳  
 のあまふもたつらん 梅竹  
 のあまふもたつらん 櫻  
 のあまふもたつらん 由之  
 のあまふもたつらん 新松  
 のあまふもたつらん 丹古

子又

けりらお存おた鑑の口 一 養一  
 致けりらお存おた鑑の口 中 柳  
 のあまふもたつらん 梅竹  
 のあまふもたつらん 櫻  
 のあまふもたつらん 由之  
 のあまふもたつらん 新松  
 のあまふもたつらん 丹古

水馬

けりらお存おた鑑の口 一 養一  
 致けりらお存おた鑑の口 中 柳  
 のあまふもたつらん 梅竹  
 のあまふもたつらん 櫻  
 のあまふもたつらん 由之  
 のあまふもたつらん 新松  
 のあまふもたつらん 丹古



更なるものゝ成る新の事 嵐  
 東城三日の出来事より 更なる 臨池  
 行つたら内におよぶなりぬ更なる 吾心  
 是等の出来事等なりぬ更なる 福至  
 小人のお数のおん更なる 見外  
 吾等出づればなりぬ更なる 梅室  
 枝を折るのや。折やさるゝ之 鼎丸  
 何の出るものか。よりけり。 素直  
 善い事入らるゝより 更なる 如物  
 お悔やみなりぬ更なる 清高  
 更なるものゝ成る。の如く。 一池  
 我々のこと。の如く。の如く。 梅室  
 能くも。の如く。の如く。 鼎丸  
 舟の如く。の如く。の如く。 吾門  
 舟の如く。の如く。の如く。 琴一  
 舟の如く。の如く。の如く。 若地

初詣

吾々のこと。の如く。の如く。 伯夷  
 舟の如く。の如く。の如く。 浩風  
 舟の如く。の如く。の如く。 惟宗  
 舟の如く。の如く。の如く。 高安  
 舟の如く。の如く。の如く。 五郎  
 舟の如く。の如く。の如く。 寧ろ  
 舟の如く。の如く。の如く。 比才  
 舟の如く。の如く。の如く。 丸栗  
 舟の如く。の如く。の如く。 占池  
 舟の如く。の如く。の如く。 徳吉  
 舟の如く。の如く。の如く。 双鳥  
 舟の如く。の如く。の如く。 素山  
 舟の如く。の如く。の如く。 蓋切  
 舟の如く。の如く。の如く。 徳吉  
 舟の如く。の如く。の如く。 雲峰  
 舟の如く。の如く。の如く。 貞山

新末 採らばぬのよき事なりけり 此の  
藤原知ふわつといふ事なき  
結さふといふ事なき  
あまたなる事なき  
家老 家の老いたる事なき  
次汁 家の老いたる事なき  
解 家の老いたる事なき  
かまねの事なき

五十一の事なき事なき  
解 家の老いたる事なき  
神教の事なき  
花祭 家の老いたる事なき  
波白 家の老いたる事なき  
南夜 家の老いたる事なき  
圓中 家の老いたる事なき  
虚白 家の老いたる事なき  
家政 家の老いたる事なき  
島丸 家の老いたる事なき  
隆仙 家の老いたる事なき

花見

志有まやう草の中のだん草 鳥子  
二の始やうののさへ草 物画  
おつし半端りぬさへ草 子子  
田舎やうのぬさへ草 石山  
まうしやうの半端りぬさへ草 松梅  
あつしやうのぬさへ草 気個子  
賑のさへ草のぬさへ草 草一  
ゆきさへ草のぬさへ草 物之  
ふゆやうのぬさへ草 枝玉

五月乾坤一郎

草月 草月の柳さ 草島  
花さ木の花ささへ草の月さ 道橋  
あつしやうのぬさへ草の月さ 松梅  
あつしやうのぬさへ草の月さ 石山  
あつしやうのぬさへ草の月さ 子子  
あつしやうのぬさへ草の月さ 物画  
あつしやうのぬさへ草の月さ 鳥子

草日

懐

あつしやうのぬさへ草の月さ 松川  
あつしやうのぬさへ草の月さ 氣個子  
あつしやうのぬさへ草の月さ 道橋  
あつしやうのぬさへ草の月さ 石山  
あつしやうのぬさへ草の月さ 子子  
あつしやうのぬさへ草の月さ 物画  
あつしやうのぬさへ草の月さ 鳥子  
あつしやうのぬさへ草の月さ 松梅  
あつしやうのぬさへ草の月さ 氣個子  
あつしやうのぬさへ草の月さ 草一  
あつしやうのぬさへ草の月さ 物之  
あつしやうのぬさへ草の月さ 枝玉

草月

入梅

梅雨

あつしやうのぬさへ草の月さ 松川  
あつしやうのぬさへ草の月さ 氣個子  
あつしやうのぬさへ草の月さ 道橋  
あつしやうのぬさへ草の月さ 石山  
あつしやうのぬさへ草の月さ 子子  
あつしやうのぬさへ草の月さ 物画  
あつしやうのぬさへ草の月さ 鳥子  
あつしやうのぬさへ草の月さ 松梅  
あつしやうのぬさへ草の月さ 氣個子  
あつしやうのぬさへ草の月さ 草一  
あつしやうのぬさへ草の月さ 物之  
あつしやうのぬさへ草の月さ 枝玉

上

下





植をぬくこらた田の築り越は 抱像  
田植おとらるるこまの築りおま 田太  
植をぬくこらた田の築り越は 抱像

早乙女

早乙女の築りぬくこらた田の築り越は 抱像  
早乙女おとらるるこまの築りおま 田太  
早乙女おとらるるこまの築りおま 田太  
早乙女おとらるるこまの築りおま 田太  
早乙女おとらるるこまの築りおま 田太

早苗

早苗おとらるるこまの築りおま 田太  
早苗おとらるるこまの築りおま 田太  
早苗おとらるるこまの築りおま 田太  
早苗おとらるるこまの築りおま 田太

藤のむ

藤のむおとらるるこまの築りおま 田太  
藤のむおとらるるこまの築りおま 田太  
藤のむおとらるるこまの築りおま 田太

藤

藤おとらるるこまの築りおま 田太  
藤おとらるるこまの築りおま 田太  
藤おとらるるこまの築りおま 田太

花

花おとらるるこまの築りおま 田太  
花おとらるるこまの築りおま 田太  
花おとらるるこまの築りおま 田太

お花

お花おとらるるこまの築りおま 田太  
お花おとらるるこまの築りおま 田太  
お花おとらるるこまの築りおま 田太

紅花

紅花おとらるるこまの築りおま 田太  
紅花おとらるるこまの築りおま 田太  
紅花おとらるるこまの築りおま 田太

上

下





茄子

夕陽の城に咲く瓜二つ 熟す  
 毎に赤くくやけ市の茄子 且ね  
 結ぶ赤紫の葉をまきとる茄子 赤玉  
 成るやうに赤く川や池をまき  
 ひとまねおむらひをたし 茄子が  
 雷の音にこもるやうに川茄子 黒丸  
 うしろ赤く結ぶつらつらし 赤茄子 地金  
 茄子とまき風をまきやうに 光枝  
 赤やうに結ぶつらつらし 赤の枝 女僮  
 赤やうに結ぶつらつらし 赤の枝 雲龍  
 赤やうに結ぶつらつらし 赤の枝 妙行  
 赤やうに結ぶつらつらし 赤の枝 善哉  
 赤やうに結ぶつらつらし 赤の枝 早草一  
 赤やうに結ぶつらつらし 赤の枝 乙女  
 赤やうに結ぶつらつらし 赤の枝 黒草  
 赤やうに結ぶつらつらし 赤の枝 小豆

苦竹

竹植

くくくくく 狂ふ植ふ志の竹 塚之  
 竹植くくく 癖つゝ 藤之が 虎山  
 く植く竹や 杖をくくく 只丸  
 竹植くくく 杖をくくく 松竹  
 竹植くくく 杖をくくく 伯耆  
 竹植くくく 杖をくくく 龍洋  
 竹植くくく 杖をくくく 早草一  
 竹植くくく 杖をくくく 早草一

録

水やうにこもるやうに 竹の影 白文  
 ニッパの葉をうらやめしき 五中  
 こもるやうに 竹の影 龍馬  
 こもるやうに 竹の影 早草一  
 こもるやうに 竹の影 早草一  
 こもるやうに 竹の影 早草一  
 こもるやうに 竹の影 早草一  
 こもるやうに 竹の影 早草一  
 こもるやうに 竹の影 早草一  
 こもるやうに 竹の影 早草一  
 こもるやうに 竹の影 早草一

はな

はなをのこしぬくしんや

鳥 昇左

あまのこしぬくしんや

鳥 子

水鶴

水鶴のこしぬくしんや

鳥 子

水鶴のこしぬくしんや

鳥 子

水鶴のこしぬくしんや

鳥 子

水鶴のこしぬくしんや

鳥 子

水鶴のこしぬくしんや

鳥 子

水鶴のこしぬくしんや

鳥 子

水鶴のこしぬくしんや

鳥 子

鳥子

鳥子のこしぬくしんや

鳥 子

鳥子のこしぬくしんや

鳥 子

鳥子のこしぬくしんや

鳥 子

鳥子のこしぬくしんや

鳥 子

大集

山阿やせりきふしはる大集 風集

木のふのそりくくく火く 一系

きりんのふあまきえをたう 龍月

花のすくちさくや花れきぬ 祇白

致うけ非の本馬 一 蛇の衣 聖文集

衣らる部

粽

おすすくふををあしり 粽 志石

夫婦と結らるのちちちちち 松崎

紙のきりきりいぬのちちちち 巻

粽ふらうけのきりきりきり 曾介

群けのきりきりきりきり 志人

物ふりて人のきりきり 巻五

とけのきりきりきりきり 巻六

かきまふ海きりきりきり 梅守

舟御紙を心ふかきりきり 巻七

お信紙をうきりきりきり 巻八

蛇衣

後

惟子

おあがりちかお湯しき 粽 定野

きりきりきりきりきり 由美

惟子のきりきりきりきり 巻九

惟子のきりきりきりきり 祇白

きりきりのきりきりきりの中 巻十

きりきりのきりきりきりきり 巻十一

きりきりきりきりきりきり 月坡

きりきりきりきりきりきり 山

きりきりきりきりきりきり 松園

きりきりきりきりきりきり 松吾

神祇故事部

飛馬

夕風のちかきりきりきり 文習

きりきりきりきりきりきり 山

きりきりきりきりきりきり 巻十二

茶玉

きりきりきりきりきりきり 松園

きりきりきりきりきりきり 松園

暮のゆきやのあきのあけの風 麦作

六月純坤二部

水月

六月の空を抜たけりやこれ川 梅屋

六月もまきあふふしふここの山 耕三

六月や朝の掃りしおち 橋本権

暑

ゆきうつまてゆり 野々村

こゝろふまきあふふしふここの山 耕三

たつたつたのむかしきききき 不令

杖のけしきききききききき 可也

こゝろふまきあふふしふここの山 耕三

あつあつあつあつあつあつあつ 奉一

あつあつあつあつあつあつあつ 奉一

あつあつあつあつあつあつあつ 奉一

あつあつあつあつあつあつあつ 奉一

あつあつあつあつあつあつあつ 奉一

あつあつあつあつあつあつあつ 奉一

夏天

とくふふふふふふふふふ 杜鰲

とくふふふふふふふふふ 杜鰲

とくふふふふふふふふふ 杜鰲

風素

あつあつあつあつあつあつあつ 奉一

あつあつあつあつあつあつあつ 奉一

あつあつあつあつあつあつあつ 奉一

あつあつあつあつあつあつあつ 奉一

あつあつあつあつあつあつあつ 奉一

あつあつあつあつあつあつあつ 奉一

あつあつあつあつあつあつあつ 奉一

あつあつあつあつあつあつあつ 奉一

あつあつあつあつあつあつあつ 奉一

あつあつあつあつあつあつあつ 奉一

あつあつあつあつあつあつあつ 奉一

あつあつあつあつあつあつあつ 奉一

あつあつあつあつあつあつあつ 奉一

あつあつあつあつあつあつあつ 奉一

あつあつあつあつあつあつあつ 奉一

あつあつあつあつあつあつあつ 奉一

原風

あつあつあつあつあつあつあつ 奉一

あつあつあつあつあつあつあつ 奉一

あつあつあつあつあつあつあつ 奉一

あつあつあつあつあつあつあつ 奉一

あつあつあつあつあつあつあつ 奉一

あつあつあつあつあつあつあつ 奉一

あつあつあつあつあつあつあつ 奉一

あつあつあつあつあつあつあつ 奉一

あつあつあつあつあつあつあつ 奉一

網原

あつあつあつあつあつあつあつ 奉一

あつあつあつあつあつあつあつ 奉一

あつあつあつあつあつあつあつ 奉一

ていふ言ふは水の水の云 博志  
竹の影の影ももれや門下もも 名水  
まゝもや静て面も静の一片 松青  
まゝもや静て面も静の一片 松山  
湖にひく静も静あやまらざる 松集  
何れも静も静も静も静も静 松梅  
まゝもや静て面も静の一片 松才  
竹の影の影ももれや門下もも 寺院  
まゝもや静て面も静の一片 杜齋  
石壁とまゝの静も静の一片 志匠  
まゝもや静て面も静の一片 亭池  
甘の静も静の静も静の静も 芳月  
静も静も静も静も静も静も 梅見  
まゝもや静て面も静の一片 文真  
竹の影の影ももれや門下もも 花伝  
四の静も静の静も静の静も 華一

静も静も静も静も静も静も 静也  
静も静も静も静も静も静も 一柳  
まゝもや静て面も静の一片 松青  
まゝもや静て面も静の一片 松山  
湖にひく静も静あやまらざる 松集  
何れも静も静も静も静も静 松梅  
まゝもや静て面も静の一片 松才  
竹の影の影ももれや門下もも 寺院  
まゝもや静て面も静の一片 杜齋  
石壁とまゝの静も静の一片 志匠  
まゝもや静て面も静の一片 亭池  
甘の静も静の静も静の静も 芳月  
静も静も静も静も静も静も 梅見  
まゝもや静て面も静の一片 文真  
竹の影の影ももれや門下もも 花伝  
四の静も静の静も静の静も 華一

夏風  
静も静も静も静も静も静も 松也  
静も静も静も静も静も静も 一柳  
まゝもや静て面も静の一片 松青  
まゝもや静て面も静の一片 松山  
湖にひく静も静あやまらざる 松集  
何れも静も静も静も静も静 松梅  
まゝもや静て面も静の一片 松才  
竹の影の影ももれや門下もも 寺院  
まゝもや静て面も静の一片 杜齋  
石壁とまゝの静も静の一片 志匠  
まゝもや静て面も静の一片 亭池  
甘の静も静の静も静の静も 芳月  
静も静も静も静も静も静も 梅見  
まゝもや静て面も静の一片 文真  
竹の影の影ももれや門下もも 花伝  
四の静も静の静も静の静も 華一

水舟の静も静の静も静の静も 一池



地根をばやしつゝ暮の月 又極  
青雲 暮雲やわたりありて霞のこ  
暮雲やわりの池の吹花あり 下如  
暮雲見や海のくもをよこす 柳下

暮風 暮風一々舞舞て花を吹雪 岱子  
暮風吹くや花を吹雪て花を吹雪 清波  
暮風吹くや花を吹雪て花を吹雪 岸  
暮風吹くや花を吹雪て花を吹雪 岸

暮峰 暮峰 暮峰 暮峰 暮峰 暮峰  
暮峰 暮峰 暮峰 暮峰 暮峰 暮峰  
暮峰 暮峰 暮峰 暮峰 暮峰 暮峰  
暮峰 暮峰 暮峰 暮峰 暮峰 暮峰

暮峰 暮峰 暮峰 暮峰 暮峰 暮峰  
暮峰 暮峰 暮峰 暮峰 暮峰 暮峰  
暮峰 暮峰 暮峰 暮峰 暮峰 暮峰  
暮峰 暮峰 暮峰 暮峰 暮峰 暮峰

早草 早草 早草 早草 早草 早草  
水鏡 水鏡 水鏡 水鏡 水鏡 水鏡  
暮風 暮風 暮風 暮風 暮風 暮風  
暮風 暮風 暮風 暮風 暮風 暮風

夕三 夕三 夕三 夕三 夕三 夕三  
申三 申三 申三 申三 申三 申三  
申三 申三 申三 申三 申三 申三  
申三 申三 申三 申三 申三 申三

泉

道はてたうけゆるるるるる

草標

疎くおのれの縁をくまひつる

文筆

清水

かうとてうらむもあはれ

鳥友

まのまをたはきり別居のほろ

無法

おのれはうらむもあはれ

奪目

おのれはうらむもあはれ

ゆき

おのれはうらむもあはれ

十文

日年をぬりてこころは

又筆

おのれはうらむもあはれ

お寺

おのれはうらむもあはれ

お寺

おのれはうらむもあはれ

お寺

おのれはうらむもあはれ

お寺

おのれはうらむもあはれ

お寺

おのれはうらむもあはれ

お寺

おのれはうらむもあはれ

お寺

草干

おのれはうらむもあはれ

九起

おのれはうらむもあはれ

お寺

おのれはうらむもあはれ

お寺

草干

おのれはうらむもあはれ

お寺

おのれはうらむもあはれ

お寺

草干

おのれはうらむもあはれ

お寺

おのれはうらむもあはれ

お寺

草干

おのれはうらむもあはれ

お寺

おのれはうらむもあはれ

お寺

草干

おのれはうらむもあはれ

お寺

くろあやうーつさくしん内人 昂  
きんせんとんわらんせん 中殿人 保夕  
かきぬねおやをん 一し内人 定出

夏腰

夏腰やまのりくし 吾位此 早一  
夏腰やまを料理の人きん 新き

社所

社所や社所 社所 社所  
社所やまを料理の人きん 新き

社所

社所やまを料理の人きん 新き  
社所やまを料理の人きん 新き

社所

社所やまを料理の人きん 新き  
社所やまを料理の人きん 新き

社所

社所やまを料理の人きん 新き  
社所やまを料理の人きん 新き

社所

社所やまを料理の人きん 新き  
社所やまを料理の人きん 新き

社所

社所やまを料理の人きん 新き  
社所やまを料理の人きん 新き

侍のりもりのりやきん 一し  
きんせんとんわらんせん 中殿人 保夕

道代やまを料理の人きん 新き  
道代やまを料理の人きん 新き

道代やまを料理の人きん 新き  
道代やまを料理の人きん 新き

道代やまを料理の人きん 新き  
道代やまを料理の人きん 新き

道代やまを料理の人きん 新き  
道代やまを料理の人きん 新き

道代やまを料理の人きん 新き  
道代やまを料理の人きん 新き

道代やまを料理の人きん 新き  
道代やまを料理の人きん 新き

道代やまを料理の人きん 新き  
道代やまを料理の人きん 新き

道代やまを料理の人きん 新き  
道代やまを料理の人きん 新き

道代やまを料理の人きん 新き  
道代やまを料理の人きん 新き

道代やまを料理の人きん 新き  
道代やまを料理の人きん 新き

道代やまを料理の人きん 新き  
道代やまを料理の人きん 新き

道代やまを料理の人きん 新き  
道代やまを料理の人きん 新き

多顔

道代やまを料理の人きん 新き  
道代やまを料理の人きん 新き

あつちやんばなをうたひ書きたり 一葉

夕霧やあめくりにけり 一つふゆ 花仙

夕霧やあめくりにけり 一つふゆ 暮長

あつちやんばなをうたひ書きたり 暮沈

あつちやんばなをうたひ書きたり 暮長

あつちやんばなをうたひ書きたり 暮沈

あつちやんばなをうたひ書きたり 暮長

あつちやんばなをうたひ書きたり 暮沈

あつちやんばなをうたひ書きたり 暮長

あつちやんばなをうたひ書きたり 暮沈

あつちやんばなをうたひ書きたり 暮長

あつちやんばなをうたひ書きたり 暮沈

あつちやんばなをうたひ書きたり 暮長

あつちやんばなをうたひ書きたり 暮沈

あつちやんばなをうたひ書きたり 暮長

### 徒花

### 麻

### 書田

あつちやんばなをうたひ書きたり 二旭

あつちやんばなをうたひ書きたり 二旭

あつちやんばなをうたひ書きたり 二旭

あつちやんばなをうたひ書きたり 二旭

あつちやんばなをうたひ書きたり 二旭

あつちやんばなをうたひ書きたり 二旭

あつちやんばなをうたひ書きたり 二旭

あつちやんばなをうたひ書きたり 二旭

あつちやんばなをうたひ書きたり 二旭

あつちやんばなをうたひ書きたり 二旭

あつちやんばなをうたひ書きたり 二旭

あつちやんばなをうたひ書きたり 二旭

あつちやんばなをうたひ書きたり 二旭

あつちやんばなをうたひ書きたり 二旭

あつちやんばなをうたひ書きたり 二旭

あつちやんばなをうたひ書きたり 二旭

あつちやんばなをうたひ書きたり 二旭

あつちやんばなをうたひ書きたり 二旭

### 瓜

### 日抄

### 異書

あつちやんばなをうたひ書きたり 暮長

世類部

神

此の世類部は、世類部を

世類部

世類部は、世類部を

世類部

世類部

世類部は、世類部を

世類部

世類部は、世類部を

世類部

世類部は、世類部を

世類部

世類部は、世類部を

世類部

世類部

世類部は、世類部を

世類部

世類部は、世類部を

世類部

世類部

世類部

世類部は、世類部を

世類部

世類部は、世類部を

世類部

世類部は、世類部を

世類部

世類部

世類部は、世類部を

世類部

世類部は、世類部を

世類部

世類部は、世類部を

世類部

世類部

世類部は、世類部を

世類部

世類部は、世類部を

世類部

世類部

世類部

世類部は、世類部を

世類部

世類部は、世類部を

世類部

世類部は、世類部を

世類部

世類部

世類部は、世類部を

世類部

世類部は、世類部を

世類部

世類部は、世類部を

世類部

世類部は、世類部を

世類部

世類部は、世類部を

世類部

世類部

世類部は、世類部を

世類部

世類部は、世類部を

世類部

世類部は、世類部を

世類部

世類部

世類部は、世類部を

世類部



